

はさみ 議会だより



「そうめん 早いなぁ！」 とうのう あそび学校(川内郷)

●6月定例会

- ・ 28年度一般会計補正予算・・・・・・・・・・・・・・・・ P2～3
- ・ 27年度一般会計補正予算ほか4特別会計補正予算(専決処分)・・・・・・ P3～4
- ・ 第2分団消防ポンプ自動車を更新・・・・・・・・・・・・ P5
- ・ 一般質問 5議員が登壇・・・・・・・・・・・・・・・・ P6～9

●委員会レポート・・・・・・・・・・・・・・・・ P9～11

6月定例会

ました。8日は町長より提案要旨の説明の後、5人の議員が一般質問に立ちました。
・承認されました。(一般質問については、6～9ページに掲載しています。)



○28年度一般会計 補正予算

熊本地震対策費
など総額2200
万円を追加

28年度一般会計補正予算は、熊本地震対策ほか喫緊の事業実施が必要な経費等2200万円を追加し、総額62億9300万円となりました。

主なものは、地震義援金50万円、マイナンバー発行業務委託料223万円の増、新規事業として、放課後児童クラブおよび保育所への事務効率化のための事務機器導入補助金605万円、中尾郷山神社改修補助金(県・町補助合計)188万円、陶芸の館高圧受変電設備・空調設備改修工事費920万円などです。



中尾郷の山神社

Q 21世紀まちづくり支援事業を活用した中尾郷の山神社改修の内容は。

A 壁やトタン、雨漏り対策、瓦の敷き替えを行う。事業費は総額約280万円で、県・町・地元で各3分の1の負担。



平成 28 年第 2 回 6 月定例会は、6 月 8 日から 13 日までの 6 日間の日程で開かれ
13 日の議案審議では、提案された予算に対する質疑応答の後、全て可決



陶芸の館高圧受変電設備

A 設備が 2 系統あり、27 年度に北側が故障し緊急工事をした。その際南側を点検したところ、同じ状態で改修が必要だったため、28 年度に予算計上して実施するものである。今回、内側の配管は変えず外側の改修だけで良いため、全体を行うより負担が少ない。

Q 陶芸の館の設備は 27 年度も改修しているが、前年度工事との兼ね合いは。改修と新設を比較した場合の差の程度は。

Q 児童対策費の内容は。
A 放課後児童クラブや保育所にパソコンなど事務機器を導入し、効率化と省力化を図るためのもの。

○ 税条例の一部を改正する条例(専決処分)

地方税法の一部を改正する法律、政令、省令の施行に伴い改正するもの。

(主な改正点)

- ・ 固定資産の非課税の適用を受け交付するものの申告関係
- ・ 固定資産の課税を各自治体の実状に応じた制限できる特例措置(わがまち特例)

の議会で報告し議会の承認を受けることが必要です。

今回、専決処分の承認が求められた税条例の一部を改正する条例、27 年度補正予算一般会計および 4 つの特別会計は、すべて「承認」となりました。

A わがまち特例の対象施設として条例で 12 項目定めており、今回太陽光発電施設や風力発電施設など 7 項目を追加した。現在適用しているものは、太陽光発電施設(3 分の 2 に減免)のみである。

Q 新築の固定資産の減免の改正
・ 町たばこ税の改正に伴う経過措置
わがまち特例で適用している本町の事例は。



○27年度一般会計補
正予算ほか4特別
会計補正予算
(専決処分)

27年度一般会計補
正予算は3900万円
追加し60億2900万
円となりました。

今回は決算見込み
の事業費、財源の補
正、決算剰余金の特定
目的基金への積立金
による補正が主でし
た。

地方交付税や各種
交付金は3月末実績
による増減額を計上。
ふるさと納税は3
月末で917件の寄
附があり経費を差し
引いた840万円を
基金に積立しました。
また、庁舎建設基金
に1億円、減債基金に
は6000万円を積
立てました。



Q 現在のマイナンバー
発行数は。

A 申請者は777件
で交付が532件。
全人口の5%。



マイナンバーカード

Q 農村環境改善セン
ターホール冷房機改
修実施設計委託料の
一部を工事費へ充て
たことの説明を。

A 当初は委託費300
万円、工事費1100
万円を計上していた
が、実施設計で補足
工事が生じたため委
託費の残を組み替え
た。繰越予算は内容
に増減が生じた場合
は予算枠内で対応可
能になっているため
そのように処理した。

農村環境改善センター冷房機



役場庁舎



Q 庁舎建設基金積立
金1億円と減債基金
積立金6千万円は、
議会の議論を得ずに
専決にされているが、
専決になじまないの
では。お金の使い道
は議会で議論するこ
とが基本。

A 当該基金には決算
見込み額が出た後に
剰余金を積み立てる
こととしている。3

月末に国の交付金額
等が確定するが、3
月議会には既に終了し
ており、今回の専決
補正で承認を求める
ことはやむを得ない
部分があるため理解
いただきたい。

Q 法人割が2300
万円増だが陶磁器関
連の税額はどのくら
いか。

A 大手企業の3月決
算が見込み以上に増
え1500万円増額
した。法人納税者32
0社中114社(約
3割)が陶磁器関連
で368万円増えた。



波佐見焼

○財産の取得（700 万円以上の動産の取得）

第 2 分団消防ポンプ自動車を更新

取 得 価 格 17,859,590円

契約の相手方 株式会社ナカムラ消防化学（大村市）



22 年が経過した第 2 分団消防ポンプ自動車

<提出された以下の請願、陳情について産業厚生委員会へ付託>

- 28請願第 1 号 ニシケン工業における民間企業による「産業廃棄物最終処分場」建設に関しての請願 内容：村木郷峠地区に建設計画がある最終処分場について
- 27陳情第9号 国による子ども医療費無料制度の創設を求める意見書及び国民健康保険療養費国庫負担金の調整（減額）廃止を求める意見書採択を求める陳情

6月定例会

賛 否 表

主 な 議 案

○賛成 ●反対 -は欠席

		議席番号		1	2	3	4	5	6	7	8	10	11	12	13
		議決の 結果	表決数 賛成：反対	百 武 辰 美	中 尾 尊 行	石 峰 実	古 川 千 秋	尾 上 和 孝	藤 川 法 男	今 井 泰 照	太 田 一 彦	松 添 一 道	大 久 保 進	中 村 與 弘	松 尾 幸 光
議案番号	議 案														
36	平成28年度波佐見町一般会計補正予算(第1号)	可 決	12：0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
37	専決処分の承認を求めることについて (波佐見町税条例の一部を改正する条例)	承 認	12：0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	専決処分の承認を求めることについて (平成27年度波佐見町一般会計補正予算(第5号))	承 認	12：0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	専決処分の承認を求めることについて (平成27年度波佐見町国民健康保険事業特別 会計補正予算(第5号))	承 認	12：0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
40	専決処分の承認を求めることについて (平成27年度波佐見町後期高齢者医療特別会計 補正予算(第2号))	承 認	12：0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41	専決処分の承認を求めることについて (平成27年度波佐見町介護保険事業特別会計 補正予算(第3号))	承 認	12：0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
42	専決処分の承認を求めることについて (平成27年度波佐見町下水道事業会計補正 予算(第3号))	承 認	12：0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	財産の取得について	可 決	12：0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

いっぱんしつもん 一般質問

今回の一般質問では、5人の議員が登壇し、熊本地震に伴う本町の防災対策や
窯業・農業の振興策などについて質しました。

一般質問とは

町の行財政全般にわたり、議員主導の政策議論
をするものです。政策をよりよいものにするため、
一般質問によって執行機関への疑問点をただし、
事実関係を明らかにすることで、政治姿勢や政治
責任を明確にすることが目的です。
事前通告制が採用され、制限時間は1人あたり
60分。1回目の質問を一括して行い、2回目以降
は一問一答式で行います。



<もくじ>

	議員名	内 容
7 ページ	太田 一彦	○防災対策について
	石峰 実	○住民の安心安全を保つ防災対策と救急体制について ○観光客や健康志向者のための環境整備について ○町有林の収益分収契約の現状と今後の取り扱いについて
8 ページ	大久保 進	○窯業と農業、歴史と文化の町「波佐見」について ○野球場の建設について
	藤川 法男	○産業の支援や育成について ○熊本地震による本町事業への影響と予算の確保について
9 ページ	松尾 幸光	○景観形成について ○窯業振興について

◎熊本地震の教訓から本町の防災計画は



太田 一彦 議員

問 本町の防災訓練の実施状況は。

総務課長 町が直接主催して行っているところは無い。自治会単位では中尾郷、志折郷、川内郷、三股郷、平野郷、野々川郷が行っている。

問 避難所となっている町の施設及び各自治会の集会所の耐震は大丈夫なのか。

総務課長 町が設置している学校、施設、波佐見高校の体育館を含め10ヶ所は耐震をクリアしている。自治会の集会所施設の中には昭和56年以前の建物で10ヶ所程度あり、耐震をクリアしているか否かは分からない。

問 野々川ダムの耐震は。

町長 ダムは昭和47年に建設され、高さ24m、長さ86m、総貯水量105万m³、ダム内には地震計が設置されていて、熊本地震時の震度は2・6だった。震度4以上になると長崎県地域防災計画により点検等を実施しなければならない。

問 ため池の総数と点検等は。

町長 全国各地で地震や豪雨によりため池が決壊し、大きな被害が発生している状況に鑑み、国の防災減災対策事業をうけ25・27年度に一斉点検を実施した。管理運営されているため池は103箇所ある。その内特に重要水防ため池16箇所は、26年度から2年間かけてため池関係者等と「ため池ハザードマップ」を作成した。

問 波佐見町地域防災計画で第5章に地震対策計画が記載されている。防災会議の中で議論されたことはあるのか。

総務課長 この計画書の中の細かい協議はなされていない。

問 自主防災リーダー（防災士）の活用と役場職員を計画的に防災士として養成してはどうか。

総務課長 自治会に呼びかけながら積極的に進めていくべきと思う。職員の養成は前向きに進めていきたい。

問 自主防災リーダー（防災士）の活用と役場職員を計画的に防災士として養成してはどうか。

一般質問

◎桜づつみロード等観光資源の環境整備を ◎町有林の分収林契約を今後どうするのか



石峰 実 議員

問 熊本地震の震災状況は甚大である。地域防災計画の見直しは。また、課題や問題点はどんなことか。

町長 地震発生から時間経過が短いため計画内容の検証ができていない。見直すかどうかはこれからの作業だ。中核となる役場庁舎等は耐震に問題があり、できるだけ早い時期に建替え等が必要と認識している。

問 収容避難所等の安全確保は。

町長 昭和56年以前に建築の自治会公民館等では耐震基準をクリアしていない可能性がある。避難所に指定している以上、どんな支援ができるか研究したい。

問 多くの町民が健康志向からウォーキング等の運動に取り組まれている。

町長 桜づつみロード等に運動量がわかる表示板等の設置ができないか。

町長 健康寿命を伸ばすことは重要な施策であり、ウォーキング等はその効果がある。全体に表示板等を設置する方向で検討を進めたい。また、路面補修を今年度から計画的に実施する。

問 観光客や多くの町民が桜づつみロードを散策したり、ジョギング等を利用している。観光資源として環境整備を図るべきでは。

町長 桜づつみロードでは町内外多くの方が散策やジョギングに利用されている。気持ちよく利用していただくよう適時適切な管理と愛護団体の協力を得て環境美化保全に努めている。

問 町内の町有林の中で、数地区の自治会が昭和30年代頃から町と分収林契約を結び、育林作業を通して造林の育成に努めてきた。長年が経ち、伐採適齢期を過ぎても契約に基づく分収分配の見通しすら立たない。町はこの状況をどう捉え、今後どのように取り扱っていく考えか。

町長 昭和37年に11集落との間で、収益分収に関する契約が締結されている。植栽から50年以上経過したが、木材価格の下落、路網整備などの関係から、今直ちにすべての分収林から収益を得るには厳しい。当面、関係自治会との協議の場をつくり、今後の対応を検討したい。



◎農業と窯業、歴史と文化の町 波佐見
◎農業振興について
◎野球場の建設について

大久保 進 議員

問 今回歴史文化交流館（仮称）整備に伴い、伝統あるやきものの歴史・文化を後世に残し、子供達へ継承するため映像（ＣＤ）化するべきではないか。

教育長 今までは波佐見史上・下巻や波佐見焼４００年の歩みを編集発行してきた。ビデオ撮影機器も予算化されたため記録映像を整備する。

問 今後の農業政策は、水稲だけでは収益性はなく、後継者も育たない。田園地区にハウス栽培を推進する必要があると思うが。

農林課長 収益性のある農業を県も推進しており、現在集落営農で安定化を進めている。ハウス栽培は有効手段の一つで、アスパラは一部されている。今後も県や地元関係者と十分協議を重ねていく。

問 海外との競合は、生鮮食品を区分けするなど収益性がなければ続かない。土壌づくりはすぐにはできないため行政の支援が必要だと思うが。

町長 土地利用型で稲作

を中心に功をなした時代もあった。余剰労力で窯業に受け皿があったため収入もあり良かったが、土壌は稲以外の作物には向かない。人づくり土づくりが要であり、ハウスに切り替えて省力化・機械化・合理化して現状打開を推進したい。

問 野球場建設は何回となく質問してきた。研究するとの話もあったがどうなっているか。

教育長 建設には多額の費用を要し、国・県の補助制度もなく次世代に大きな負担がかかる。賛同はするものの着手でできていない。

問 波佐見では野球熱が高い。野球場建設は青少年育成事業としても大事であり、効果は十分にあると思うが。

教育長 熱い思いは受け止めており、ノーと言うのではない。機会を作ることを願って既存施設を充実させながらスポーツ振興に徹したい。



◎天草陶石の確保は十分か
◎法人農業と中山間地農業のあり方は

藤川 法男 議員

問 「はさみ焼」は、官民一体でのＰＲ事業により全国的に認知されている。その基盤である天草陶石は、将来的に確保が困難と予想される。すでに陶石採掘業者も１３社から３社に減少し、本町だけの問題でなく近隣市町村との連携が必要と思うがどうか。

町長 天草陶石は、はさみ焼の生命線であり、既に熊本県、佐賀県、長崎県が平成２５年度から３県持ち回りで官民挙げて対策等協議会が開催されている。今後も関係市町村や陶磁器業界や窯業技術センターと連携して研究する。

問 本町の農業は、法人化による規模拡大中心の農業と地域や自然を守る中山間地農業である。双方ともに方向性が違うが、その支援はどうなるのか。

町長 ２６年度から２７年度にかけて５組織が農事組合法人化し、３組織も準備を進めている。

支援としては、今まで同様な各種交付金の支給、大

型機械や、園芸施設導入時の助成支援を行う。
特に経理事務や税務等の研修会などで事務負担の軽減を図りたい。

問 ２１年度の減反政策で共補償制度は約４万３０００円であったが、２７年度では約２万２０００円と約半分。３０年度は減反政策が廃止され、補助金がなくなり農業法人の経営は非常に厳しい。今後は、経営安定化のため、通年型農業（ハウス栽培）などに導入の方向性をＪＡ、行政、農業振興会で見出してほしいが。

農林課長 今後、各関係機関が集まる農業振興会などで、会議の中身を変え、その方向性になる議題を出し、収益性が上がるような農業政策が出来る環境をつくりたい。また、中山間地の農業は、自然を守る農業に対する交付金を活用していただき、活性化を図る。その中でいろいろな事業、体験塾等を通して地域を守ることと考える。



◎本町の「景観形成」は万全か ◎天草陶石の安定した供給体制を

松尾 幸光 議員

問 波佐見町景観条例が平成28年4月1日から施行された。景観審議会の委員の選出方法は、

町長 波佐見らしい景観の持つ意味や価値を熟知されている方々で、長崎大学名誉教授、同准教授、県北振興局建築課長、はさみ観光ガイド協会長、町内建築事務所、造園アドバイザー、公募2名、学芸員の合計9名。

問 景観施策を行う上での共通事項として、住民への普及や意識の向上、各種団体との協働の仕組みづくり、人材育成や支援等の総合的な展開が必要だが。

町長 町ホームページ等による啓発活動と観光客等に対する本町の魅力的な景観をPRする為の情報発信をしていく。

問 風景や観た目の印象と捉えられているが、それに加えて、生活や歴史文化、自然といった様々な景観自然全体を捉えたものである。多岐にわたる問題であり本町のまちづくりとも大きく関係するため、それぞれの事項について問題提起しながら解決する必要がある。

町長 熊本・佐賀・長崎の三県のそれぞれの組合、窯業技術センター、行政等で天草陶石に関する意見交換会を既に開催し、問題の意識の共有や対策等協議がおこなわれている。今後関係市町や陶磁器業界、窯業技術センター等と連携を取り対策協議を続けていく。

問 波佐見焼の主原料「天草陶石」は、近年良質な陶石が得られにくく、今後は山に堆積している土を除去後、より良い陶石を採掘しなければならぬが、陶石組合では後継者不足等で苦慮していると聞く。早急に波佐見町と有田町、更には県レベルで今後の対策を協議する場を設けるべきでは。

町長 熊本・佐賀・長崎の三県のそれぞれの組合、窯業技術センター、行政等で天草陶石に関する意見交換会を既に開催し、問題の意識の共有や対策等協議がおこなわれている。今後関係市町や陶磁器業界、窯業技術センター等と連携を取り対策協議を続けていく。

問 波佐見焼の主原料「天草陶石」は、近年良質な陶石が得られにくく、今後は山に堆積している土を除去後、より良い陶石を採掘しなければならぬが、陶石組合では後継者不足等で苦慮していると聞く。早急に波佐見町と有田町、更には県レベルで今後の対策を協議する場を設けるべきでは。

町長 熊本・佐賀・長崎の三県のそれぞれの組合、窯業技術センター、行政等で天草陶石に関する意見交換会を既に開催し、問題の意識の共有や対策等協議がおこなわれている。今後関係市町や陶磁器業界、窯業技術センター等と連携を取り対策協議を続けていく。

広報調査特別委員会

小値賀町を行政調査



6月17日、18日、北松浦郡小値賀町にて議会広報の編集・発行の現状について行政調査を行った。

小値賀町議会は「おぢか議会だより」が第30回町村議会広報全国コンクールの奨励賞を受賞されるなど、日々努力されている。

今回の研修においては、議会情報より速く、より多くの方々に読んでいただけるかの課題克服を命題に行われた。まずはいかに広報記事のニュース性があるうちに、住民に届けるか。小値賀町では自ら編集ソフトを活用して、定例会閉会後5、6日の短期間に編集し、2週間以内で仕上げ、議員が各地区に届けている。また、福

岡の印刷業者と船便を有効に利用して、経費を削減されている。

編集作業は議長・副議長（広報委員長）が中心となって広報委員会を1週間ほど毎日詰めて行ったり、自宅に持ち帰り深夜までも作業をし努力されている。

すでに小値賀町においては、議会基本条例を6月議会に上程予定であり、これまでも内規としていた編集などの基本方針を、要綱化し制定することとされている。

今後、波佐見町議会だよりにおいても、スピード感をもって発行できるように研究していかなければならない。それには、議員全体の意思統一と協力が不可欠である。

今後、現状の発行スタイルや編集期間の見直しを手掛け、親しまれ読まれる議会誌の発行に取り組みたい。



小値賀町での議会広報編集作業の様子

産業厚生委員会

●水田を活用した施設園芸普及のための先進地視察／周年型ハウス栽培研究

5月12日、J Aなかさき県央（諫早市）の南部地区にら部会、南部地区ミニトマト部会、宇良胡瓜部会を現地視察。



●南部地区にら部会

諫早市森山、長田、有喜地区を中心に作付、主な出荷先は東京、京都、大阪など。反当りの出荷額は約135万円と高くないが、比較的作りやすく真夏が株養成期で作業が少ない。栽培戸数は減少傾向で新規就農者の確保が課題。



●南部地区ミニトマト部会

諫早市森山、長田、小野地区等を中心に栽培。主な出荷先は関東、福岡、県内など。反当りの出荷額は約550万円で26年度から研修生を受け入れている。今年度は5名の新規就農者が加入した。



●宇良胡瓜部会

昭和43年に設立、会員数7名、ハウス面積1・78ha。定植が11月と6・7月で、収穫は12・4月と7・9月。天敵等の導入で防除作業の省力化を図っている。出荷先の変更で反当りの出荷額が約365万円から50万円増加。選別等も難しくなくメリットは大きい。24年から補助事業を活用し県外からの若手就農者を受け入れている。



委員会

（まとめ）

本町は法人化で規模拡大を図り、土地利用型農業を推進しているが、年に一度の収穫では所得向上は低く、周年型ハウス栽培を導入すべきである。それには多額の初期投資や栽培技術の確立など総合的支援が必要である。新規就農などは経営安定が条件で、本町独自の取り組みを目指すべきである。

●村木郷町道「峠線」の拡幅整備について要望書を審査

（要望書）

町道峠線は、県指定文化財の「三領石」へのアクセス道路や百笑会の視察観光バス受け入れなどの利用は益々多くなることが予想される。そのため、調査を行い、道路の拡幅・側溝の整備を全面的に進めてほしい。特に、有田町接続地点から佐世保市合流地点までの約1kmについて早急に拡幅改良工事の実施を要望する。

4月13日、平成24年に本線の拡幅整備の要望があり、その際に危険箇所にごードレールが設置された。

今回の要望について建設課は、今年度は他路線の工事予定があり、予算的に厳しいが可能な限り取り組みたいと説明。委員会としては、離合場所等考慮し危険箇所から部分的に工事を進めるべきとの意見であり、この件については引き続き調査する。

総務文教委員会

●波佐見町歴史文化交流館（仮称）
総事業費約3億1612万円

湯無田郷の民家を購入し、整備計画が進められている波佐見町歴史文化交流館について、4月25日に教育委員会次長・文化財保護係長（学芸員）・文化財整備係長の出席を求め調査を行った。

事業期間は、平成27年度から30年度の4年間で、27年8月10日から28年3月11日までに基本構想を終え、28年5月から11月までに実施計画を行って、29年1月から30年6月までに整備工事を行う。総事業費は約3億1612万円の予定である。

また、整備方針としては、教育委員会分室として、学校・社会教育施設・歴史文化・生涯学習施設、また観光交流施設として町の情報発信、歴史文化の継承と後継者育成や地域文化資源の活用などの機能を合せ持った施設として、資料等の常設・企画・特別展示などを行う。



レポート

●小中学生の学力向上に向けて 教育委員会と懇談

5月20日、委員会と教育委員の皆さんとの懇談会を開いた。

今回は、事前に各小中学校のPTA役員の方々と懇談会を開催し、委員会においてテーマ化し、質問をおこなった。

1 小中学生の学力の実態について

平成27年度全国学力状況調査の結果、中学生は、全国平均を上回っていたが、小学生は、若干平均よりも下回っていた。成績が優秀な児童とそうでない児童の二極化が進んでおり、低学年においての学力指導を強化している。

2 波佐見高校の育成と支援について

毎年160名程度の新生入生がいるが、町内からは40名前後である。少子化の中、このような現状が続くと存続を含めた将来が懸念される。

教育委員会としては、基本的には進路選択の自由があり介入はできない。学校

側がいかに魅力ある学校づくりをするのが重要である。特に新設された美術工芸科の生徒が来年度卒業するが、その進路（進学）が注視されている。教育委員会としても高校の取り組みなど普及啓蒙に努めていきたい。

3 子どもの貧困（格差）について

全国的に子どもの貧困（格差）については、一人親世帯や非正規労働者の増加などで大きな問題となっている。

本町の28年度の準要保護が小学生39名、中学生22名、要保護が小学生4名、中学生1名である。

貧困家庭においては子どもたちの将来のため奨学金制度などのサポートを行っていく。

議長が厳重注意!!

波佐見町会議規則第12章の規律、101条に「品位の尊重」とある。

議会議員である者はすべて「議会の品位」を重んじなければならない。しかし議席12番中村與弘議員は常任委員会や議会全員協議会等の重要な会議に対し、遅参やたびたび無断で欠席したことにより、議会運営の秩序を乱したため、波佐見町議会運営申し合わせ事項に基づき、議長より当議員に対し、「厳重注意」が行われた。

傍聴者の声

28年6月定例会は、波佐見町老人クラブ連合会女性部より22名の傍聴がありました。感想を一部ご紹介します。

町議会の傍聴は初めて参加しました。議場を見るのも議会を聴くのも初めてで、座り心地も緊張しました。

最初は防災対策についての質問でした。身近な大震災は初めてのことで、本町の防災無線に驚き、非常事態にびっくり、自分達の所で起こったらどこにどういふうに避

難したらいいかということも初めて感じました。

町長さんも最善のお答えをされましたが、まずは自分自身の問題であるということを実感しました。防災対策は緊急な課題だと思っています。

これから、ますますこういう問題も検討していかなければならないと感じました。

議会の傍聴に

きませんか？

※日程はHPや町内放送でお知らせします。



議員活動報告

7 月				6 月				5 月			
29日	28日	25日	22日	19日	13日	8日	4日	1日	30日	28日	27日
康津郡訪問（～31日）（韓国）	第23回全国棚田（千枚田）サミット第2回実行委員会	波佐見町議会行政調査（～27日）（長野県）	議会広報調査特別委員会	議員全員協議会	第22回全国棚田（千枚田）サミット（～15日）（新潟県佐渡市）	西九州自動車道建設促進期成会定期総会（伊万里市）	東彼杵郡町村会肉牛共励会（佐世保市）	議会広報調査特別委員会	県下町村議会研修会（長崎市）	議会議長会	産業界委員会（諫早市視察）
29日	28日	25日	22日	19日	13日	8日	4日	1日	30日	28日	27日
康津郡訪問（～31日）（韓国）	第23回全国棚田（千枚田）サミット第2回実行委員会	波佐見町議会行政調査（～27日）（長野県）	議会広報調査特別委員会	議員全員協議会	第22回全国棚田（千枚田）サミット（～15日）（新潟県佐渡市）	西九州自動車道建設促進期成会定期総会（伊万里市）	東彼杵郡町村会肉牛共励会（佐世保市）	議会広報調査特別委員会	県下町村議会研修会（長崎市）	議会議長会	産業界委員会（諫早市視察）

平成28年第3回定例会は9月初旬からの予定です。

編集後記

8月も半ばを過ぎましたが、まだまだ暑さが続きそうです。

7月の参議院選挙では、18歳からの選挙となり、新たな有権者が加わり、政治に対する関心度も高まりました。

私たち町議会も10月に改選となります。本町としては、法改正後の初めての選挙なので、戸惑いがありますが、若い人達にも今以上に関心を持ってもらい、より良い議会活動に努めていきたいと思っています。



議長	川田保則
副議長	尾上和孝
委員	百武辰美
委員	今井泰照
委員	石峰尊行
委員	中尾